

令和7年度 第4回市長タウンミーティング 概要

○ 日 時：令和7年8月30日（土）午後3時～4時35分

○ 場 所：秩父市役所本庁舎 3階 庁議室

○ テーマ：シニアライフ支援

○ 参加者：54人

○ 意見交換（主な内容）

発言者1：高齢者の被害が多い特殊詐欺対策について、以前、通話録音機の配布について問い合わせたところ、市では配布していないとの回答でした。通話録音機の配布についてはどのように考えているのかお伺いします。また、横瀬町では、青パト（青色防犯パトロール）が防犯パトロールをやっているという話がありました。詐欺では、キャッシュカードを取りに来たりする手口もあるので、市でも青パトの見回り強化を要望します。

また、熱中症対策について、特に高齢者の救急搬送が多いとよく聞きます。熱中症の予防として、高齢者が水分補給しているか、エアコンを適切に利用しているか、見回りをしていただくよう要望します。

市長回答：通話録音機（固定電話の録音）について、以前、「通話は録音してま

す」ということを知らせる機械などの検討があったと記憶しているので、確認します。青パトについては、市全体ではやっていなくて、町会や連合町会で行っていると思います。重要なことですので、市でも共有したいと思

います。高齢者の熱中症対策について、安心・安全メールで熱中症予防の周知はしています。もっと身近なところになると、町会や民生委員に気を配っていただくように周知することかと思

職員回答：熱中症対策について、包括支援センターでは、利用者宅訪問時に、熱中症グッズなどを配布し、その際、注意喚起を行ったり、クーラーの使い方

を説明する等の対応をしています。発言者2：介護する側の立場で都内から参加しています。限界を感じています。動くスーパーや地域のボランティアの方々に、防犯も兼ねて、月に1回は見守りに来てほしいです。こちらが行くことはできないので、来てもら

職員回答：動くスーパーについては、市でも一部地域では実施しています。大滝地区には、みやのかわ商店街から販売に行っています。秩父郡内では、ウ

エルシア薬局の「うえたん号」を導入しているところがあります。今後、秩父市でも買い物が困難な地域が出てきた場合には、このようなサービスが必要だと感じています。

また、地域のボランティアとして、社会福祉協議会の在宅福祉員が定期的に見守りを兼ねてお弁当を配ったりしています。その他、地区には民生・児童委員がいて、高齢者や障がいのある方等の把握や定期的な訪問を行っています。

市長回答：今、こちらで説明したのは、移動スーパーのようなものが、比較的、家の近くに来て、販売するというような話でしたが、もう少し違うイメージでしょうか？

発言者2：家の中から出ることができない状態なので、地域の人の見守りと動くスーパーのようなものを、すぐにはできないと言わずに、1回はやってほしいです。民生委員では足りないです。

職員回答：介護保険の認定を受けているなら、介護保険のサービスの中の訪問系サービスを利用していただければと思います。介護保険の認定を受けていない場合は、地域での見守りは、民生・児童委員が行っています。また、ふれあいコール事業という町会単位での見守りや声かけ活動もあり、新聞や郵便物が溜まっていないか等の見守りを行っています。

発言者3：消防署の救急隊員です。

秩父地域で救急件数が非常に増えています。緊急性が低い救急要請も多いです。ただ、救急車を呼ぶしかないという場合もあります。例えば、数日前から発熱している、昨日転倒したが今日になったら動けない、といった症状で、搬送してもらえない手段がなく救急車を呼ぶということが非常に多いです。救急車を呼ぶほどではない方に使ってもらうために、市立病院に「病院救急車」というものを配置して、秩父広域全体で運用できる患者搬送車を提案したいです。市では、そのような案があるかお伺いします。また、会場の方には、そういうものがあれば利用したいかお聞きしたいです。

市長回答：確かに救急件数が年々増加していて、限られたキャパシティなので、どんどんしわ寄せがいつているという感覚はあります。秩父地域の医療状況に関して、もっと住民の皆さんと共有する時間をとりたいと思っています。

このような状況も踏まえて、早く病院に行きたい場合に利用してもらうオンライン診療（夜間の内科診療と小児診療）を開始しました。

病院救急車については、導入している病院・自治体のオペレーションも含めて研究し、前向きに考えていきたいと思っています。

職員質問：病院救急車を配置した方がよいと思う方、挙手をお願いします。

（挙手、多数）

職員質問：有料の場合、タクシー並みの料金でも利用しますか？
(挙手、4名)

発言者3：各町会の地域担当職員を置いてほしいです。数カ月に1回、各町会と意見交換をして市役所と市民で情報共有していけば、地域ごとの緊急性の問題等、今までの意見にも対応していけると思います。

市長回答：地域担当職員については、今、検討していますが、どのような働き方になるか、整理・研究しなければならないので、年度内は難しいと思います。

タウンミーティングは、地区の意見や地域課題を共有することが大事だと思うので、来年以降、地域ごとに開催して行こうと思っています。

発言者4：自分自身のシニアライフについて、市内小学校で英語絵本の読み聞かせのボランティアをしています。この英語絵本の読み聞かせボランティアの後継者を探しています。図書館の勉強会に行ったり、公民館や育児サークルで活動しましたが、とても難しい状況です。市で協力してくれる課があればと思い、相談させていただきました。

副市長回答：教育委員会の学校教育課に聞いて、後で連絡します。

発言者5：将来、施設に入所できるか心配です。施設の数、充足率、待機者数などの動向を知りたいです。

また、運転免許証を返納した場合、公共交通機関を利用することになりますが、バスや電車はバス停や最寄り駅まで行くのはハードルが高くて難しいです。買い物は配達サービスで代行ができますが、病院に行くためには公共交通だけで大丈夫なのでしょうか？

職員回答：令和6年度から8年度の介護保険事業計画では、推計人口に対して現在の施設数で足りるという見通しでしたので、施設を増やす計画はありません。

発言者5：入所を希望すれば入れるということですか？

職員回答：施設によっては待機者もいます。動けない状態であれば特別養護老人ホーム、日常生活は自立しているが一人暮らしに不安がある場合はケアハウスがあります。特養は市内に8カ所、郡内に7カ所あります。一時的に入所するショートステイも利用できます。住み慣れた地域に長く暮らし続けてほしいという考えから、地域包括ケアシステムという体制があります。

施設によっては満床の所もあり、個別に施設に相談していただければと思います。

市長回答：施設によっては満床の所もあり、待機者もいますが、施設数、定員、将来の推計人口に対して、施設は足りています。

また、公共交通については、運転免許証自主返納者には、鉄道・バス・

タクシーで利用できる公共交通の利用券 6,000 円分を配布していますが、生涯で1回のみでは厳しいと思っています。大滝地区では、市で車を所有して移動支援を行う新しい手段を導入しました。吉田・大田地区は、安価で利用できるデマンドタクシーを実施しています。横瀬町・小鹿野町はデマンド型を全域で実施しています。地域によって公共交通事情は違うので、タクシー業者とも話し合っ、新しい方法を考えていきたいと思っています。

発言者 6 : 先ほどの施設は、市が認証しているのでしょうか？

職員回答 : 例えば、特別養護老人ホームの場合、県または市が指定しています。

発言者 7 : 会議の進め方について、最初に司会者が、「説明が 30 分、質疑応答が 60 分」と言われました。市長のお話が 25 分、各課の説明が 35 分、これで一時間使ってます。残り 30 分が市民、これでは市民の意見が反映されていないです。前回も同様で、市役所の体制がどうなってるか、甘さを感じます。

市長回答 : 市からの説明内容は明確簡潔にし、皆さんの意見が聞けるよう、今後、時間を厳守して、きっちりとやりたいと思います。

発言者 8 : 年金だけでは生活できない人がほとんどだと思いますが、秩父にはシニアが働ける場所がほとんどありません。どのように考えていますか？

市長回答 : シニアの方の働き方について、まず、シルバー人材センターを利用していただきたいと思います。

ただ、社会全体の話になるので、シニアの方々が働きやすい環境をつくることに対して、自治体が応援していくことが、今後、必要だと思います。秩父市だけでは解決しづらいとことだと思います。

副市長回答 : 65 歳からの働き方について、フルタイムはなかなか難しいかもしれませんが。時間を切り分けて、少しの時間で働くという働き方もあります。それを市から企業に取り組んでほしいということは言えませんが、市の産業系の部署が事業主に対応する際、求人状況を聞いて、生きがいとして働くことができるよう、どのようにやっていくのがお互いにメリットがあるのか研究していきたい思います。